4/20 県民に信頼される病院を目指して

富山県立中央病院新診療棟竣工

◀診療棟内を見学

富山県立中央病院の新診療棟の竣工式が、四月二十日、中沖知事をはじめ関係者約二百名が出席して行われました。

式では、テープカットにより完成を祝った後、中沖知事が、「待たせない外来など、患者本位の病院となるよう配慮した」とあいさつ。また、病院を代表し舘野院長が「施設、設備面はもちろん、運営面でも全職員力を合わせて最善を尽くしたい」と述べました。

今回完成した新診療棟は、地下一階、地上五階建て。中央部には、来院者の交流の場「ふれあいプラザ」の広々とした空間が広がります。また、左右にはリハビリテーション・手術・検査などの各部門からなる中央診療棟と、内科・和漢診療科など十八の診療科を擁する外来診療棟を配置しています。

また、カルテ自動検索システムの導入などによる診療—検査—調剤—会計の一元化により、〝待たせない外来〟の実現を図ったほか、最新の医療設備も整備されました。

この新診療棟完成を契機に、二十一世紀へ向けた本県の医療体制がより充実していくものと期待されます。